

ラグビーの精神 伝授

子どもたちのリクエストで、リフトプレーの体験も行われた



10月から計6回 練習や紅白戦、魅力体感



同部は本年度、要請を受けて同小のスクールサポ

ーターに就任。10月から計6回、全校体育の時間に山下祐史、朋友太岡コーチや部員が同小を訪れ、ルール説明やパスワーク指導などを行ってきた。

(井上周平)

授業が15日、階上町立階上小で行われ、全校児

階上

八戸学院大の男子ラグビー部によるラグビーの

童7人がプレーを楽しみつつ、競技ルールやフエアプレーの精神を学んだ。

八学大男子部員、階上小児童に授業

たちと部員

最終回のこの日は、タツ

クルの代わりに腰に付けた

タグを取る「タグラグビー」

を児童、部員混成の紅白チ

ームで実践。子どもたちは

それぞれフォーメーション

を考えて攻守に熱中した

り、休憩中に教員が撮影し

た試合映像を確認して作戦

を練り直したりと、ラグビ

ーの魅力を感じていた。

授業後は6回の授業を振

り返り、子どもたちはお手

製のアルバムを、部員はオ

リジナルキーホルダーをそ

れぞれプレゼント。部員に

よる本格的なパスやリフト

プレーの披露に大喜びの子

どもたちは「すごい!」「ま

たいいつでも来てね」と再会

を熱望していた。

山下さんは「プレーだけ

でなく、他人を思いやる心

がどんどん成長する様子が

印象的だった。要望があれば、また教えに来たい」と

笑顔を見せた。

タグラグビーを楽しむ子ども